

令和元年度 総社市総合計画審議会協議事項要旨

日時 令和元年 10 月 25 日（金）10：00～12：00

会場 総社市保健センター 1 階運動指導室

1 市長あいさつ

本日はありがとうございます。また新しい任期を全力で頑張ってもらいますので、よろしくお願いたします。今年には総合計画の前半の部分の4年目ということで、さらにチューニングしながら、総合計画は二つ三つ思いがありまして、ひとつは、繰り返しになりますが、これまでは、総合計画のような計画ばかり作るコンサル会社が素案を作り、姫路市、高知市、高梁市とか、緑いっぱいふるさと自慢とか、どこにでもありそうなものを並べてハイこれが総社版ですと出していたわけです。その作成費が700万800万、印刷代を含めて1500万みたいなことです、どこも。ところどころにこうした委員さんのエッセンスが入っているだけのもの。ぼくらの前の総合計画もまさにそのような形で、どこにでもある転がっているみたいなもの。そうではなく、わら半紙でもなんでもいい。手書きで総合計画を作ろうではないか。そして思いがあるものを総合計画にしたためていくという精神でいきましょう。それから、これは議会で可決するわけですから、職員がこれに縛られっぱなしということになります。これを改正していくことに、公務員はものすごく否定的です。これがバイブルだからです。これをやたらにひっくり返すものではありません。ただ、このように災害が起こったときとか、のるかそるかのことを経験したときとか、そういうことに対して変化させていく勇気を持ちなさいとぼくは言っているわけです。決して作った作者がこれに縛られていかない。いつも変化しそのときに対応できる総合計画であるべきだと。その勇気をもっておかなければならないのが総合計画です。そういう気持ちを込めてご審議いただきたいと思います。

今回、私は無投票でありました。これは本当に良いことではありません。これが激戦の一騎打ちであればお互い公開討論会であるとか、この総合計画を巡って一体どうなのかという論戦があったわけですが、論戦を経ずに当選しました。だから私自身語る口を持っていないということです。ただそうはいいいましても、ざっと1400世帯くらい戸別訪問してまいりました。激戦だったら過疎には行けません。昭和、宇山、槁、水内の滝山、本当に1軒1軒歩けたんです。その疲弊した部分の痛み、これはこういう総合計画に美しくうたっている部分の外にあります。苦戦をしている地域にビジョンを作っていくということが必要なこととしておそらくこの中にうたいこまれるべき、後期計画になるかどうか何かアレンジして入れていく必要があると思います。そもそも政治家、行政は人口が減っていくところに対して巨大なミスマッチをしています。国もそうです。人口が減り行く場所に向かって人口を増やせとっています。われわれは人口が減りゆく社会の未来予想図をつくろうではありませんか。草刈の共同作業ができますか。あるいは買い物難民をどうしていきますか。お届け買い物移動車をもう少し増やしてもらいましょう等。増やすことが無理な地域に向かって増やせ増やせといて、それが有名無実になって、それが現代の政治と行政の住民のミスマッチだと思います。だから我々は減り行く社会にむかって、処方箋を書いていくことも大事なテーマです。

最後に、これはどうしても右肩上がりになる予想図を描いています。そうありたいと思っています。人口が増え、雇用が増え、新しい産業が増え、税収が増え、そのスパイラルで人口がどんどん増えていって10万人を目指せる形を作っていきます。桃太郎線のLRT化もやり、沿線の開発をし、様々な政策を打って産業を呼び込んで雇用を増やしていく形を作っていきます。ただ、その作っていく際に弱い立場、弱い地域に、こつこつこつこつ丁寧にやったら右肩上がりの世界が逆に早く訪れます。急がば回れです。弱い立場の地域、人に対して、積み重ねていったら総社市は爆発的に伸びる可能性を持っていると思います。伸び行く部分については、結構イージーにいける環境ができております。この間清水理事長ともお話ししたのですが、新たな雇用政策に投資していこう。創業者起業家に対して助成をしていこう。タイミングは今です。そこをやりながら、弱い立場を見ていくことが、今の総社に置かれた大きなテーマです。総社は今千載一遇のチャンスを迎えています。ただ、急がば回れです。そういうところに目配せをしながら優しい総合計画を作っていくべきではなかろうかと思っていますので、色々な意見を聞かせていただいてよい総社市を作っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ（総社商工会議所 清水会頭）

皆様おはようございます。お忙しい中お繰り合わせご出席いただきましてありがとうございます。また、市長様におかれましては再選おめでとうございます。力強いリーダーシップの下、総社市をますます強い地域にしていくよう協力してまいりますのでよろしくお願いいたします。さて今日は実施状況等について、説明の後みなさまにご意見を伺いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。来年度が5年目、その次が後期の計画ということで、そのあたりも踏まえてご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介（新規）

総社市PTA連合協議会 石部会長【御欠席】

総社市校長会 室山会長（総社東小学校校長）

総社市地域自立支援協議会 大橋会長（吉備自立支援センター）

4 協議事項

(1) 市民満足度調査結果について

【資料①, 資料②】事務局から説明

(2) 第2次総社市総合計画の評価・検証について

【資料③, 資料④】事務局から説明

※資料①「市民満足度調査結果」について、数値過誤のご指摘あり。資料①差替

※資料①「市民満足度調査結果」の5段階評価の評定で数字が小さいほうが満足で、評価が逆転しているのご指摘。次回の調査までに検討。

※資料①「市民満足度調査結果」の重要度については、すべてが重要ではないか。
住民がその施策を望んでいるかどうかの間で、表現方法は今後検討。

※資料④「重要業績評価指数（KPI）達成状況」の転入超過数の当初値，直近5年間
平均年155人は，平成23年から平成27年までの5年間平均値。目標値の
平均200人以上は平成28年から令和2年まで数値。

<各委員から意見及び感想，事務局からの回答（抜粋）>

（※欠席委員からいただいたご意見ご感想も含む。）

【企業誘致，起業創業支援】

・企業誘致と人口増のバランスが非常に重要。（友野委員）

⇒総社市は農振地など，土地の制限が多いので，国県と調整を進めながら企業誘致を進めていきたい。

・できもしない人口増加の施策ではなく，商工会議所等々と一緒に企業のアピールをすれば，そこに一つの地域の活性化の元ができるのではないかと。（風早委員）

⇒人口増のための起業，創業，企業への支援も含めて考えたい。

・県大周辺の整備を，重ねてお願いしたい。市の魅力化をどう広げていけばいいのかということで，生活の知恵のような総社版があると世代を超えた交流も生まれる。総社の売上額で言うと食品関係，自動車関係，機械関係で70数パーセント，こういう技術があればこういうことができるのではないかと。大企業を誘致するのは頭打ちの状況と感じているところで，こつこつと住民の知恵，産業の技術のちょっとした資本がうまく生かされることをするために，そういうことに鼻のきく人を仕掛け人として招いて意見交換会をすとか，それが異業種の技術交流につながっていくことを考えられてもいいと思う。（吉原委員）

⇒地区によってはそば打ち体験，こんにゃくづくり体験等の事業もあり，総社の良さを知っていただく取組みを広げていきたい。起業支援は少し遅れているところではあるが，吉備信用金庫様，商工会議所様，商工会様とも連携しながら新しい業を起こす人の支援を考え，そのために必要なコーディネーターの育成や招へいも含めて考えたい。

・市長のあいさつの中で千載一遇のチャンスとあり，今総社市は各方面で本当に注目されていると思う。そうした中で働きたくなる総社ですが，地元事業者の活性化，創業等の施策がないということ。大企業の誘致も重要だが，小規模事業者，個人事業主のための施策をぜひ具体的な形で落とし込んでいただきたい。例えば市役所の中に，起業の相談や，事業に対する相談の窓口，ワンストップでいろいろな相談ができる窓口があればいいと思う。地域金融機関もしっかりとサポートをしていきたいと思う。（清水委員）

⇒市としても来年度予算でどれだけできるかを検討し措置したいと思う。その際には色々な面でアドバイスいただければと思っている。

【桃太郎線 LRT 化，服部駅前県大周辺整備】

・桃太郎線の LRT 化で，駅の数が増えることによって総社岡山間の乗車時間がかかるようになると思う。議論を尽くしてほしい。（友野委員）

⇒LRT は総社市にとって重要な施策で，岡山市，JR と3者で検討を進めている。ご指摘の時間や，新駅の場所，財政面での調整等，ある程度固まった時点で，議会を含め皆様に

お示しし、ご意見をうかがいたい。

・LRT化できるように早く進めて、北部、西部からそこへ行くための、例えば雪舟くんとか、定期バスとか、土日祭日も含めて、もう少し前向きにしていきたい。(平松委員)

⇒LRTについては、沿線以外の地区をどうするかということが非常に重要で、市長もその地域の理解がなければLRTはできないと思っているので、2次交通を含め、こういった形でLRTにつなげられるかを考えてまいりたい。引続きお知恵をお借りしたい。

・県立大学周辺は農業振興地域だが、この農振解除を早急に進め、学生のまちの様に早くなればいいと思う。(平松委員)

⇒県大前の農振解除については、今まさに国県と協議を進めているところで、少しずつ整理している。

・県大付近の農振農用地の除外について、市街化するには岡山県南のフレームがあるが、岡山県南都市計画区域のフレームを拡張する方向にあるのか。(荒木千代信委員)

⇒市街化の県南区域のフレームについては、県が拡大する方向。

【観光・公共交通】

・恵まれた立地を生かして地域の魅力を生かした大きなイベントを開催し、観光や子育てにつなげてほしい。(吉澤委員)

⇒現在、全体では吉備路マラソン、れんげまつり、雪舟フェスタ、赤米コンサート等を行い、地域では秦の遺跡巡りや昭和のそば打ち等を行っているが、市外の人にも地域の魅力を伝えることのできるイベントを関係課と相談し地元と協力しながら考えていきたい。

・観光客の減少について、交通手段がネック。2次交通を考えてしっかりとやっていただきたい。最近ゲストハウスがいくつかできているが、宿泊施設についても行政がバックアップしてほしい。(佐野委員)

・2次交通は長期的な視野で10年後も必ずあるようなシステム作りが重要。(清水会長)

⇒交通手段については、民間事業者との会議を立ち上げ、交通手段の確保を検討している。また、国の動向も注視していきたい。観光は総合政策なので、農泊なども含め、幅広い点で観光を軸に考えていきたい。

・例えば吉備路マラソンや、大きな全国大会をしても、倉敷岡山へ泊り朝来て夕方帰るのが現状。総社へ泊って観光して帰るのが一番いいが、宿泊施設が増えることで観光客が増えると思う。(荒木千代信委員)

⇒宿泊施設については、民間施設もあり誘致が難しいが、空き家もあり、ゲストハウスも新しくできたところで、そうしたところも活用して宿泊施設を増やしていきたい。

・ワールドカップラグビーの時に民泊を取り入れたとのテレビがあったが、吉備路マラソンの時も、市民に呼び掛けて、民泊をしていただければ総社のことも少しわかっていたか。ではないか。(高見委員)

⇒総社に泊まる場所がないので、岡山倉敷に流れているのが実際だと思う。民泊も法律ができたので、規制はあるがその中でどういったことができるのかを考えたい。

・雪舟くんについて、平成25年、26年は229人だが、以降は210人台で推移。帰るときの便を時間設定ができないことも原因と思う。(荒木千代信委員)

⇒雪舟くんの帰りの予約が取りにくいことは各方面から承っている。今まさにどういった改善ができるかを交通政策課で考えているところ。

【危機管理，防災】

・ 昨年の災害を契機に消防団の活動も範囲を広げていかないといけないと反省をしている。1,000 人の消防団員が、自分の特技を活用し消防団の活動に生かしていきたい。ボートの免許，簡単な重機を使って土石流の撤去等，昨年の災害で希望された方が多かった。そうだったことが消防団の中でできるように，建設業組合のご協力をいただいて，範囲を広げていかないといけないと思う。（荒木毅委員）

⇒消防団員の特殊部隊ということでご協力いただいている。市としてもドローン購入，夜間の防災等を考えているので消防団の皆様にもご協力いただき，防災意識を高めていきたい。

・ まだまだ有事の際の連絡が不十分ではないかと思うので，自由枠交付金を，特別に防災枠を作って金額的などころを防災名目でアップしていただきたい。（平松委員）

⇒今後自由枠交付金の枠の見直しも進むので，防災の面からは，それを踏まえて検討したい。地元ごとの地域防災計画をお願いしており，それも踏まえて考えていきたい。

・ 防災について，自治体に全部責任を負わせてはいけない，自助共助がとても大事だと思うので，市民やNPOとの協働体制をもう少し総合計画にも盛り込んでもいいかと思う。特に総社市には下原地区という良きお手本があるので，ぜひ生かしていただければと思っている。実は昨年の水害時に倉敷市片島町にある山陽新聞の印刷センターに，近隣住民の方が50人位避難され，大変感謝された。避難所も公共施設を充足させるのはもちろんだが，場合によっては民間に協力を仰いでもいいのではないか。（日下委員）

⇒市としても公的施設が足りないのは理解している。吉備信用金庫様の施設や，市内のユーマンションの3階以上に避難できるよう協議しており，民間施設の活用も少しずつではあるが進めているところで，そのような観点も次の計画には盛り込んでまいりたい。

・ 昨年の豪雨災害があつてから，やはり防災減災の意識は高いものがあり，小さなお子さん小学生などに対する防災減災の教育は必要かと思う。青年会議所で今年も小学生向けに簡単な防災グッズを作る防災教育を行った。楽しい中でもちょっとした学びを入れ，有事の際の集合場所等の話を家族とすることも非常に大事なこと。（松本委員）

⇒防災教育も非常に重要で，7月6日を昨年の災害を受けて防災の日に制定し，その日に合わせてこれからも防災の取組みを進めてまいりたい。

【障がい者支援】

・ 障がい者千五百人雇用で，仕事をする人もすごく増えているが，工賃・給与の向上が課題。生活の課題も異なるので，配慮が必要になる。また，親が高齢化し，亡くなられたときに障がいのある方を地域でどう支えていくのかを考えないといけない。重度の方でも安心して生活できるグループホームや，グループホームを体験できる短期入所施設が必要。息の長いサポート体制も必要。例えば土日に出発がしやすいよう雪舟くんの運行等，障がいのある方の活動の幅が広がり，いきがいを持っていただける取組みもお願いできたらと思う。（大橋委員）

⇒今まで障がい者雇用の数にこだわってきたところがあるので，工賃向上の取組み等，これから質の面にこだわってまいりたい。雪舟くんの土日運行について，LRTの関係もあり，雪舟くんがいいのか，福祉的な交通手段がいいのかも含めて考えてまいりたい。

・障がい者雇用支援は、総社市をアピールできる内容だと思うが、市内に障がい者で就職できない方は、おそらく家族の方が看ているが、そういった支援があまり聞かれない。相談は受付けているかもしれないが、家族に対する支援が気にかかっている。(樋口委員)

⇒障がい者の在宅の方への支援は市として積極的にあまりできていないので、福祉課とも相談しながら必要性について検討したい。

【子どもの教育】

・不登校の出現率が小学校で悪化している。県内でも小中高の不登校が 3,566 人で、昨年度より 525 人増えている。小学生においては家庭の状況が重要。小学校の先生はとても苦勞されていると思う。次の世代を担う子どもたちを育てることは私たち大人の責任だから、子どもたちが楽しい学校になるようにしていただきたい。(高見委員)

・不登校の問題は、私たちも心を痛めている。転入者の不登校出現率が多いという市教委の分析があり、転入してくる子どもに集中的に対応するプログラムも考えている。また不登校の子どもたちに、保健室登校や、中学校では教育相談室等を利用しての指導等、学校では様々な学びの場を用意している。県事業の登校支援員は初期の不登校の生徒には有効な手段ではないかと思うので、市でも考えていただければ本当にありがたい。支援の必要な児童は確実に、虐待等も含め増えている。特別支援の必要な子どもたちに、総社市は本当に手厚くしていただいている。アンケートで「学校が楽しくない」という生徒が 10% 位いる。この子どもたちの満足度を上げることが大切ではないかと思う。今校長会を中心に、幼少中連携を進めている。最前線の若い教師の人材育成を、市と力を合わせて検討できたらと思う。(室山委員)

⇒楽しい学校づくりについて、先生方には本当に熱心に取り組んでいただき、我々も市や県の予算を使って教職員の加配をしている状況。ただ財政面の制約もありこれ以上は難しいところもあるが、例えば研修を受けた成果を共有できる仕組みを作っていただくなど、より効率化できればありがたい。

・不登校の子どもを支援するうえで体験活動がとても効果的だといわれている。総社市でもカヌーやスケート等体験活動をされているが、県立大学の保健福祉学部で今年度からスクールソーシャルワーカーを 1 学年に 10 名養成するようになった。学生が子どもたちに関わるような体験活動のプログラムを教育委員会と一緒に作れないかと思った。具体的には、不登校のお子さんに、大学に来ていただいて例えば料理教室をやって触れ合うようなプログラムができないかと思った。(近藤副会長)

⇒不登校支援の協力はぜひお願いしたい。

【多文化共生】

・外国人が増えているというデータがあった。悩みをたくさん抱えているので、県大も協力をするのでぜひアンケート調査をしてほしい。(近藤副会長)

⇒平成 27 年時点ではブラジル人や中国人が多くベトナム人は 3 位だったのが、今ベトナムの方が一番多くなっており、どういった支援が必要かを考えていかないとけない。今、日本語教室という形でやっているが、網羅的な調査はできていないので、担当課とも相談しながら進めてまいりたい。

・多文化共生事業について、市の取組みを多くのベトナム人知ってもらえたらいいと思う。(宮田委員)

⇒ごみの出し方等を含めて日本語教室で行っており、今後も市のPR、市政の周知に取り組んでまいりたい。

【農業】

・ふるさと納税の返礼品である、岡山産の果樹、特に桃・ブドウは好評なことから、今後市産米・果樹を重点品目として活用していただきたい。(石我委員)

⇒実際、ふるさと納税の半分はお米でご寄付をいただいております、お米や桃、ブドウはかなり人気が高いので、引き続きPRをしていきたい。

・農業人口の高齢化・就労者の減少により耕作放棄地が増加している。担い手農家の確保・新規就農者の育成に取り組み、優良農用地を確保してほしい。また、農業委員による地域パトロールを強化し、中期・長期の「営農プラン」を作成し、将来の営農ビジョンを確立していただきたい。(石我委員)

⇒農業委員会とも相談しながら、市長が申し上げた人口減少のビジョンと併せて考えていきたい。

【美術博物館】

・吉備路文化館で11月2日から「布下満絵画展 絵を描いて60年あしあと」を10日まで計画している。県立博物館の誘致と合わせて、美術館をぜひとも作っていただき、手持ちの芸術をしっかりと市民に、観光面でも大きな力を発揮してほしい。(樋口委員)

⇒美術博物館について、有識者会議から答申をいただき、建設に向けて検討を進めているところ。ただ財政の事情から、今の順番は復興を最優先とし、その先に新庁舎の建設がある。その後、財政状況をみながら美術博物館の建設を検討するという状況。

【後期計画策定に向けて（人口減少ビジョン）】

・市長が言われたように、弱い地域に目を向けながら発展させていくことは大変大事だ。過疎のような地域に目を向け、その人の思いをしっかりとくみ取らないといけない。その調査をしっかりとしてほしい。(風早委員)

⇒まずは市でどれくらい人口が減るかを試算しようと思う。そのうえで調査か、面談かを行い、そういった声を聴いてまいりたいと考えている。

⇒地域調査は、地元が何をしてもらえるかではなく、何が出来るかを聞いてほしい。(風早委員)

・調査の回答率が約50%、これは関心度の表れだと思う。少しでも伸びていくよう回答のしやすい調査にしてほしい。愛着度76%はすごいと思う。愛着度を増やすことは、いつまでも住み続けたいに通じるわけだから、逆に住みたくない等に目を向け、5段階評価で、4に近づけ4を超えていく方向を目指して頑張りたい。(風早委員)

⇒住みたくないという人の対策として、転入転出の際に市民課に手続きで来られた際に、待ち時間を活用してアンケート等でご意見をいただき、これからの人口増の取組みに反映させたいと思っている。

・市民満足度調査の結果から、「市民の声が反映されている」が大きく伸びているので、今の取り組みが間違っていない現れだと思う。引続き、市民に寄り添った市政が重要である。
(宮田委員)

※災害支援について (コミュニティ地域づくり協議会から)

今回の台風 19 号は色々な県にまたがったの災害だが、今総社市コミュニティ連絡協議会 17 地区がそれぞれ義援金を集めている。下原や昭和からは米も出すという喜ばしいニュースが入っている。各種団体の皆様、義援金へご協力をよろしくお願いします。

※事務局から今後の日程について説明【資料⑤】

5 閉会のあいさつ (近藤副会長)

今日は本当に長い時間貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。先程の調査の点数ですが、1 を 5 点とつけて 5 を 1 点とするのは調査論的には逆転項目というと思いますが、またこの点について協議いただければと思います。今日お聞きしていてキーワードとして福祉政策、観光政策、起業支援、防災支援、そしてそれを大きな規模だけで展開するのではなくて、住民の小さな規模でもどんどん展開していくといったことだったかと思います。他市の面白い例もありますので総社流の施策を展開していただければと思っています。今日は本当にありがとうございました。